

令和2年1定 一般質問 開催状況

開催年月日 令和2年3月12日

質問者 日本共産党 菊地 葉子 議員

担当部課 総合政策部総務課(政策局参事)

質問要旨	答弁要旨
<p>二 知事の政治姿勢について (二)「キタデミー賞」問題等について 1 知事の発言について 「キタデミー賞」をめぐる問題は、道政への道民の信頼を根底から揺るがす、衝撃的で謎の多い不祥事です。道の報告書案では、「実行委員会方式に多くの問題があった」など、極めて抽象的なものばかりで、「キタデミー賞」そのものの問題点や、なぜ組織としての情報共有がなされなかったかについての解明が全く不十分です。 知事の「もう少し精査しなければならない」との発言は、具体的にどのような問題を念頭にしておられるのか、現在の考えをまずお示ください。</p> <p>2 欠損発生時の道負担規定について 「キタデミー賞」は、全体の事業規模4,000万円に対し、道の負担金は1,500万円で、残りの2,500万円は、実行委員会に参加する企業等の負担を主に見込んでおり、参加予定企業等からは追加負担を請求しないことを求められ、「欠損の扱いについては、道に協議する」旨の規定が設けられました。これは、欠損金が発生した場合は、道のみが負担することを約束したものです。 そのため実行委員会は、財源を確保するため、実行委員会への参加予定のない企業に対しても、寄付集めに奔走していたことは承知していますが、なぜ、「キタデミー賞」実行委員会では、特例的な欠損規定を設けたのか、その理由と、それは誰の指示・判断なのか、そのことを高橋前知事は了解していたのか伺います。</p> <p>3 組織としての情報共有等について 11月30日の実行委員会設立総会で、事務局から総予算と業務委託費900万円の説明があり、12月5日にはギークピクチャーズから予算の5倍を超える4,870万円の金額が提示され、イベント開催の2か月前に、欠損金発生リスクという大きな問題となり、その時点で上司に報告・相談できなかったというのは、理解できません。 当時の担当部長と副知事、高橋前知事に対しては、誰が、いつ、どこで、どのような方法で事実確認を行ったのですか。上司に報告・相談するということや、事務局と当時の担当部長や副知事との間で、情報共有できなかったことが最大の原因との報告ですが、知事の認識及び見解を伺います。</p>	<p>【総合政策部長】 キタデミー賞問題に関し、まず、検討チームの報告書案についてでございますが、この問題につきましては、今回設置をいたしました検討チームにおいて、関係者への確認などにより、事実関係の精査や問題点の整理を行い、改善策の案として取りまとめたところでございまして、今後とも、この内容について道議会でご議論をいただきながら、事実関係などのさらなる精査を行ってまいりたいと考えてございます。</p> <p>【総合政策部長】 キタデミー賞実行委員会の規約についてでございますが、道が実行委員会規約の原案を作成する際、企業から道の担当部局に対して、実行委員会に参加するに当たり、追加負担を請求しないことの確認を求められたことから、当時の総合政策部長が、担当部局や当該企業との協議の結果を踏まえ、実行委員会の委員就任の条件として必要であると判断をし、この趣旨を規約に明記することとしたものでございますが、前知事には、規約の具体的な内容の説明は行っていなかったものでございます。</p> <p>【総合政策部長】 関係者への確認等についてでございますが、キタデミー賞問題の検討チームにおきましては、当時の知事及び副知事、総合政策部長に対し、本年2月5日から2月21日にかけて、文書や電話により、事実の確認を行ったところでございます。 この結果、イベント後まで実行委員会の事務局から、この問題についての報告はなく、予算を超過しているとの認識はなかった旨、それぞれ回答があったところでございまして、道といたしましては、この問題の発生には、職員による不適切な事務の執行はもとより、組織としての危機管理意識の不足や情報共有の遅延なども、大きな影響を与えたと考えてございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>4 真相の解明について</p> <p>「キタデミー賞」は、高橋前知事と東映会長とのトップダウンで、急遽、開催が決定された事業であり、庁内検討チームによる検証ではなく、専門家などの第三者による検証委員会を立ち上げて、徹底的に、今回の真相を解明した上で、再発防止策を講じるべきと考えますが、知事の決意を伺います。</p> <p>【再質問】</p> <p>1 知事の発言について</p> <p>知事は、今回の検討チームの報告書案を読んで、どんな感想をお持ちですか。様々な問題点は完全に払拭されたのか、それとも、さらに解明すべき点があるとしたら、それは何ですか。知事自らの言葉ではっきりとお答えください。</p> <p>2 欠損発生時の道負担規定について</p> <p>欠損がでた場合には、道だけがそれを負担するという特例的な規定が、当時の総合政策部長の判断で決定したことが、初めてわかりました。</p> <p>当時の部長から担当副知事や前知事に、ただちに報告が上がるべき重大案件であり、組織としてそれがなされなかったことは問題ではありませんか。今後も同様の対応を続けるつもりなのか、知事の認識と今後の対応を伺います。</p> <p>3 寄付金集めと情報共有等について</p> <p>実行委員会として、道幹部が寄付金集めを行っていたと承知しています。先程の部長の答弁では、検討チームは当時の知事及び副知事、部長に対し、文書や電話に</p>	<p>【知事】</p> <p>キタデミー賞問題に関し、再発防止についてであります。キタデミー賞問題の検討チームは、副知事をトップに、法制や財務などを所管する関係部局の責任者で構成し、行政実務に精通した法律の専門家であり、また、長年にわたって、道の行政に助言をいただいている道の顧問弁護士に参画いただきながら、客観的な事実に基づき、事案の経緯や問題点を整理した上で、改善策の検討を行ったところであります。</p> <p>道としては、今後とも、道議会でのご議論を通じ、道民の皆様にご理解をいただけるよう説明を尽くすとともに、この問題を重く受け止め、再発防止に向けて、実行委員会等の事業運営の改善や、職員の意識改革といった、道庁の組織運営の改善の取組を進め、道民の皆様のご信頼回復に向け、全力で取り組んでまいります。</p> <p>【知事】</p> <p>キタデミー賞問題に係る改善策についてであります。道においては、当時の記録や関係者に対する確認などにより、客観的な事実関係を精査するとともに、事案の経緯や問題点の整理を行い、この度、改善策の案を取りまとめ、道議会に報告をさせていただきました。</p> <p>現在、道議会において、問題点の捉え方などについて、ご議論、ご指摘をいただいておりますことから、これらについて、道民の皆様にご理解をいただけるよう、さらなる精査を行う考えであります。</p> <p>【知事】</p> <p>実行委員会の規約についてであります。道では、実行委員会の参加予定企業から、参加に当たって追加負担を請求しないことの確認を求められ、当該企業との協議結果を踏まえ、この趣旨を規約に明記することとしたものであり、結果として、実行委員会の運営体制が形骸化する一因にもなったと考えられることから、今後、規程の事前チェックなど、実行委員会等の事業運営の改善はもとより、庁内の情報共有など、道庁の組織運営の改善に取り組んでまいります。</p> <p>【知事】</p> <p>キタデミー賞に係る道幹部の発言についてであります。当時の知事及び副知事、総合政策部長に対し、事実の確認を行ったところ、このイベントに関して</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>より事実確認を行った結果、「イベント後まで実行委員会の事務局から問題の報告はなく、予算を超過しているという認識はなかった」との回答があったとのことです。</p> <p>しかし、私どもは、企業に寄付金を依頼して回った当時の道幹部が「キタデミーは、経費が膨らんで大変だ。ぜひ寄付を」と述べていたと関係者から聞いています。こうした発言を承知かどうか伺います。</p> <p>その関係者は、「予算超過の認識はなかったとする報告書の結論は、間違いではないか」とまで述べています。当時の道幹部が、いつ、どこで、どんな発言をしたのか、確認すべきではありませんか、伺います。</p> <p>【指摘】</p> <p>「キタデミー賞」について議論してきましたが、知事からは最後まで、この問題の真相解明につながるような説明がなかったことは、極めてゆゆしき事態と言わざるを得ません。当時の総合政策部長や担当副知事、前知事の責任について、一言の言及もありませんでした。</p> <p>トップダウンで開催が決定し、極めて限られた時間の中で準備が進められた「キタデミー賞」については、事務局の管理監督者であり、併せてトップの知事を支える役割を担う当時の担当副知事と部長には、しっかりと事態を掌握し、適正に進行を管理する重大な責務があるはずで、ただ部下からの報告を待っているだけでは、責務を果たしたとは言えません。厳しく追及し、彼らの責任の有無を明らかにすべきです。</p> <p>そもそもこの祭典は、高橋前知事と東映社長との面談からはじまり、東映から紹介された制作会社に運営を委託したものとされています。なぜ、祭典の予算額が3倍にも膨らんだのかについては、国の「桜を見る会」と類似した構造があるのではないかと指摘もあります。当時の担当部長と副知事、高橋前知事に対する、庁内検討チームによる事実確認には、遠慮や忖度が生じることは明らかです。外部の有識者会議を早急に立ち上げ、知事が先頭に立って、誰に責任があるのかについて、真相解明に当たるべきことを強く指摘します。</p>	<p>予算を超過しているという認識はなかった旨、それぞれ回答があったところであります。</p>